

第 20 回介護福祉士国家試験実技試験

やまだ塾の見解

(2008 年 3 月 3 日 11:00 掲載)

(注意点)

- ① 個人の尊重(「鈴木さん」と呼び、個人を尊重した態度・言葉遣いで適宜の声かけをし、必要な説明をし、同意および自己決定を得る)
- ② 健康状態の確認(特に、今回は「体調不調のつらさ」の繰り返しの確認が重要である)
- ③ 健側の活用
- ④ 安全・安楽の確認

(介護手順)

(1)はじめに

挨拶と自己紹介をする。

(2)体調の確認

体調不調のつらさを確認する。

(3)援助内容の説明と同意

ベッド上での側臥位→仰臥位→端座位への体位変換、ベッドからテーブルまでの歩行、テーブルでの食事の手順を説明し、同意を得る。

(4)側臥位→仰臥位

まず、仰向けになること(仰臥位)を伝える。

健側(左)の手で患側(右)の手に持って行って、右前腕をしっかり支えるように促す。

両下肢を直し、患側である右側の肩と膝関節部を支えて、静かに仰臥位にする。(参考:第 15 回国家試験)

再度、体調不良のつらさの確認をする。

(5)仰臥位→端座位

次に、ベッドの端に座ること(端座位)を伝える。

健側(左)の手で患側(右)の手を支え、腹部に置いたまま、足は交差させる(右足が上)。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

上半身と膝を支えて、上半身を起こしながらでん部を軸に回転させ、ベッドに端座位を取らせる。

(参考:第 8 回, 第 18 回)

(6)端座位→立位

端座位で健側(左)の手をベッドにつかせて上体を支えてもらい、両足を床に着かせる。

ベッドに浅く腰掛けさせ、左足をベッド側に引かせる。

右膝折れ防止のため、介護者の膝で利用者の右膝を支え、前傾姿勢をとりながら立位をとる。

(参考:第 2 回)

(7)歩行介助

介護者は患側(右)斜め後方に位置し、患側(右)の上肢と腰を支えて、テーブルまで歩行介助する。(参考:第 14 回)

(8)腰掛け(着座)

健側(左)の手をテーブルにつかせ、介護者はいすを本人の後ろから差込み(いすとテーブルの間は離れている)、いすの位置を確認してもらい、いすを支えて、安全を確認しながらいすに深く座らせる。(参考:第 14 回)

(9)おしぼりとお茶

再度、体調不調のつらさを本人に確認する。

おしぼりとお茶(熱い緑茶とほうじ茶 2 種類)を乗せたままトレイをテーブルに置く。

健側(左)の手におしぼりを持たせ、患側(右)の手を拭いてもらい、次に健側(左)の手拭きを介助する。(参考:第 4 回)

その後、好みの飲み物(熱い緑茶とほうじ茶 2 種類)を選んでもらう。

飲み物を健側(左)に置き、熱いので気をつけるように伝える。